TITLE:
HIV-related risk behaviours and the correlates among rickshaw pullers of Kamrangirchar, Dhaka, Bangladesh: a cross-sectional study using probability sampling (Abstract_要旨)

AUTHOR(S):
Md.Hafiz Ehsanul Hoque

CITATION:
Md.Hafiz Ehsanul Hoque. HIV-related risk behaviours and the correlates among rickshaw pullers of Kamrangirchar, Dhaka, Bangladesh: a cross-sectional study using probability sampling. 京都大学, 2009, 博士(社会健康医学)

ISSUE DATE:
2009-05-25

URL:
http://hdl.handle.net/2433/126588

RIGHT:
論文題目
HIV-related risk behaviours and the correlates among rickshaw pullers of Kamrangirchar, Dhaka, Bangladesh: a cross-sectional study using probability sampling (バンガルデシュの首都ダッカ市カムランギチャー地区の人力車夫におけるHIV関連リスク行動とその関連要因に関する研究:確率サンプルを用いた横断研究)

（論文内容の要旨）
【背景】バングラデシュの首都ダッカ市では、1998年から、行動サーベイランスが実施され、そのデータから、男性人力車夫（以下車夫）は、売春婦の利用や薬物使用の頻度が高い、重要なHIVリスク集団に分類されてきたが、そうした行動と関連する特性に関する分析疫学的研究は見られていない。また、車夫の行動特性や属性について、行動サーベイランスとは矛盾する研究成績も出されており、ダッカ市における車夫の行動特性と関連要因に関する、正確な研究が求められている。

【研究方法】2008年3-4月にかけて、ダッカ市に隣接する最大のスラム地域であるKamrangircharに存在する全ての人力車ガレージと登録された車夫数を実地調査によってマッピングし、ガレージをクラスターとする2段階クラスターサンプリングの1手法であるProportion Probability to Size（PPS）法によって、車夫の確率サンプルを抽出した。研究方法は、ミクストメソッドに則り、量的調査（質問票調査）前後に質的調査を実施し、それぞれ質問票作成に必要な情報、量的調査を補完する情報を収集した。質問票は、test-retest法で再現性を確認し、調査は面接法で実施した。統計学的分析には、SPSS Complex Samplesを用い、クラスター効果を調整した。

【結果】595人が調査に参加した（回収率99.2%）、平均年齢は32歳で、89.6%が既婚者、62.5%が就学経験、89.9%が車夫経験年数は平均8.6年であった。過去1年間の売春利用者、薬物使用経験者の割合は、それぞれ7.9%、24.9%で、直近（2003-4年）の行動サーベイランスの結果（72.8%、89.9%）と大きな違いがあった。また、属性についても、行動サーベイランスの結果と比較して、年齢が高く、既婚者が多く、未就学者が多いという結果になった。多重ロジスティック回帰分析の結果、30歳以下の年齢（調整オッズ比[AOR]=2.5）、未婚（AOR=11.4）、家族との別居（AOR=3.1）、過去1年間の薬物使用（AOR=3.1）、口腔性交（AOR=5.1）、肛門性交（AOR=18.8）、HIV感染リスク認知（7.3）が、売春利用と統計学的に有意の関連を示した。ダッカ市内で実施した事後質的調査の結果（n=30）ともこれらの知見はほぼ支持する結果であった。

【考察】本研究は、PPS法を車夫集団に適用したミックスメソッドを用いた最初の調査であり、ほぼ完全なサンプリングを達成した。その結果は、ダッカ市の車夫の行動特性や薬物使用などの行動特性、及び基本属性（年齢、婚姻状況、就学経験）について、行動サーベイランスの結果と大きく異なる一方、同じ市内で、2004-5年に確率サンプルを用いて車夫を対象に実施された調査及び2003年の調査と比較すると、同市の行動サーベイランスについて、バイアスの混入の可能性に関しての再検討が必要であることが示された。中毒の使用や高リスクの性行動を行う頻度が高い、重要な予防対象とされる。}

要旨公開可能日：年月日以降